



ユーザーから寄せられる都度の性能、機能試験や「こうした機能を有するものを考えられないか」といった双方のきつかけつくりとしても活用される。

構想からほぼ3年を要して完成された新研究所は、今後の同社の道筋を等しく裏付けるものであり、「技術」を軸に市場の声に応えていくという占部幹彦社長は、時にエンジニアリング力を持つ

たシステム提案などに注力しつつ、主要製品の付加価値をこれまで以上に高めていく構え。

現状について、占部幹彦社長は「吹出口、タンパーといった単体のピンズはあくト式のセンソール空調システムが、縮小傾向にある市場のなかでは、先細り傾向にあることは確かだが、例えば、物件対応への開発や付加価値をもった自社製品開発など、未だ開拓余地は残されている、特に省エネをキーワードとした制御を絡めたシステム製品は今後も需要が高まるものと見込んでいる」とし、空気の質(AIQ)まで踏み込んだ対応の必要性を説く。

併せて、今後の事業拡大の一案としては、国内以外のBRICSなどへの視点を投じ、中長期的スパンでの取り組みも検討(占部社長)とする。

一方、東日本大震災を受け、全国ネットで事業展開する同社では、同社協力企業も被災を受け、この間の受注分引き受けを申し出た。今後は、文化施設をはじめ、下水処理場やごみ焼却施設などライフラインに関わる案件が首都圏ならびに被災地において需要活性となると予測。情報収集を進めていくもの。

◇ 2002年に同社が開発した低温度空調用吹出口は深夜電力を利用した水蓄熱低送風システムに対応したもので、その構造はマルチプレート内蔵による高拡散型吹出気流や樹脂プレート装着による結露防止のほか、温度センサーによる中コロン自動上下可変を可能としている。主たる特長は、4コーナー高拡散水平吹出しにコールドドリップを防止し、結露防止型では12度Cの吹出しに対応する。

「AirPEX クリーニング」省エネ効果で短期償却

インバータ冷凍機を導入した冷房を15〜30%節電。津福工業(社長津福一宏氏、筑後市一条1-3-31)が「AirPEX クリーニングシステム」を開発し、市場展開に向けた準備を進めている。潜・顕熱分離の特許技術である「AirPEX X(エアペックス)」

津福一宏社長

をベースに低水分野への展開を図ったもの。冷やしすぎを抑制し、冷凍機の運転を緩やかに制御することでインバータ冷凍機の高効率化を可能とした。シミュレーションでは30%超の省エネが可能。「AirPEX X」は潜・顕熱分離で超省エネを実現した恒温・恒湿特許技術。研究・開発機関を中心とした普及期を経て製造業・工場などに導入の裾野を広げている。昨年度は施工を含めた受注ペースで前年比1.7倍増

と業績を高めた。「AirPEX X クリーニングシステム」は、恒温・恒水分野で培ったノウハウを低水分野に展開すべく開発。既設のインバータ冷凍機の起動制御などで運転効率を15〜30%程度高めることが可能。同システムの導入を前提に設計段階に入っている低温倉庫(東海地区)の改修事例では、同クリーニングシステム導入に伴う投資分は1年間で償却できると試算している。同社では商流開拓を行いなから「AirPEX X クリーニングシステム」の本格展開を検討している。

問で顧客を堅持 システム 低々々へサービス力に対応

モチベーションアップを下支えしている。現在の九低システムの業務は特定建設業登録(管工事業)を旗印に、冷凍冷蔵保管倉庫や低温物流配送センター、また食品加工製造工場に必要に応じて急速凍結装置や低温乾燥及び除湿装置。さらに関連施設への空調環境や恒温恒湿高精度空調から製氷及び貯水工場といった各種プラント設備を手掛ける一方、これらプラント設備の調査、修理、保守メンテナンスと幅広かつ特化した需要構成を敷いている。市場環境について山崎

孝志社長は「旧来は、一定のルートの中でそれぞれ設備業者が、その存在感を示してきたが、流通再編以降、その形は変容せざるを得なくなった。時流と見極め事業転換を図ったのが、およそ10年前でこの際、現在の九低システムを立ち上げた。特に脱・下請けを志向し、既存顧客への徹底したサービス体制で収益率の安定に努めている」とし、サービスは情報の最前線であるという、山崎社長は強い意志が反映され、独自の事業展開が継続的に実施されている。自主性ある事業展開が継続的に実施されている。自主性ある事業展開が継続的に実施されている。自主性ある事業展開が継続的に実施されている。

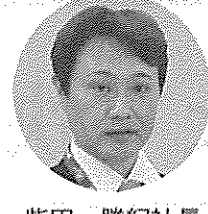
「年々歳々の言葉とおりの、顧客は必ずしも人的つながりや、コスト、さらには利便性だけで業者を選択するわけではなく、情報は最大の要である。具体的には、自社の施工能力とノウハウに拠るところが大きい。例えば、化学工場などにおいて低温除湿のニーズに対し、メーカーはいわゆる形を二纏めにすることを志向するが、同社ではむしろ設備の能力を重視し、再熱コイルのみを大きく設置するなど、見栄えより中身を重視し生産設備の歩留まり向上や省エネ化を担保してきた。また冷凍機の制御コントロールでは庫内温度を的確に拾い、入力側を小さくするなど、形にとらわれない最善案を模索し、実効を挙げる取組みに注力している。

「年々歳々の言葉とおりの、顧客は必ずしも人的つながりや、コスト、さらには利便性だけで業者を選択するわけではなく、情報は最大の要である。具体的には、自社の施工能力とノウハウに拠るところが大きい。例えば、化学工場などにおいて低温除湿のニーズに対し、メーカーはいわゆる形を二纏めにすることを志向するが、同社ではむしろ設備の能力を重視し、再熱コイルのみを大きく設置するなど、見栄えより中身を重視し生産設備の歩留まり向上や省エネ化を担保してきた。また冷凍機の制御コントロールでは庫内温度を的確に拾い、入力側を小さくするなど、形にとらわれない最善案を模索し、実効を挙げる取組みに注力している。

フレークアイス製氷の定着・拡大へ

マヤ社製品を導入

柴田 勝紀社長 カレルのソリューション拡充も



柴田 勝紀社長

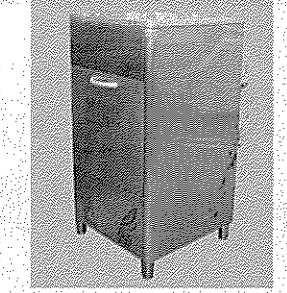
長井柴田勝紀氏(本社福岡市南区)がフレークアイス製氷機の定着・拡大に注力している。先行発売しているフランス・GEA ジェネクス社に加入し、今年度はドイツ・マヤ社の国内販売権を取得。中・小型分野にも裾野を広げていく。並行してイタリア・カレル社の自動機器類についても制御系のソリューション商品を拡充し、市場浸透を加速させていく考え。

同社は低温施設などを対象とした冷熱エンジニアリング、大手プラントメーカー向けのOEM製作、海外製品の輸入販売を鼎立させた事業を展開。輸入販売では産業用製氷システムで先進とされる欧州メーカー品の国内導入に注力。GEA ジェネクス社のフレークアイス製氷の普及を通じて、フロックアイス主体であった国内製氷市場の「変革」を先導してきた。

GEA ジェネクスの製氷システムは、日産1トン以上の主に産業用途を中心とし、施工・組み立てのエンジニアリングを含めた対応で実績を上げてきた。今年から新たに国内販売権を取得したドイツ・マヤ社の製氷機では製品展開を企図し、フレークアイス製氷の裾野拡大を図る。シリウス構成は日産85立方メートルから450立方メートルまで4機種(価格は110〜180万円、貯水庫一体型・セパレート型の2モデル)。商流を介したルート販売も視野に入れる。

また、イタリア・カレル社の自動機器類は、電子膨張弁に続いてプログラマブルコントロールなど制御系ソリューション商品を拡充していく考え。先行投入した電子膨張弁がメーカー系、設備系ユーザーなどで認知度が広がり、商流構築も進みつつあることを踏まえたもの。同社では「カレル商品は(既商流がある)加温器以外の全商品の販売を行っていく(柴田社長)」としている。

なお、同社では宮城県石巻地区に製作拠点の新設を検討。食品加工や物流など被災地の産業復興・復興を支援していきたいとしている。石巻地区では製氷システムではユーザーの被災支援に併せ、同社が復旧を支援、8月にいち早く換装を開始した。



マヤの製氷機

り、日々のサービス業務のなかで、確度の高い情報とニーズを拾い上げ、いかに費用対効果をユーザーに訴えかけるか、プラントとして纏め上げるかに専念している」と山崎社長は言う。

一方、今後の同社の成り立ちにおいては、来年以降の3年間で次代の九低システムの形を築いていくとする。時には他社とのコラボやM&Aなども視野に入れる、より安定飛行であるが故の思案であり、このための布石として社員持ち株制度の実施なども行ってきた。

山崎社長は「継承と刷新を念頭に積極的世代交代で活性化を図りたい」とし、新たな企業形態と更なる成長路線を描いている。

冷熱創作エンジニアリング

各種、機材から機器まで、幅広く製作対応致します。

被災地の産業復興を応援します!!

www.swc-jp.com

有限会社 柴田熔接工作所

【本社】〒815-0032 福岡県福岡市南区塩原3丁目13番16号
 【工場】〒816-0921 福岡県大野城市仲畑2丁目2番43号
 TEL 092-501-9798 FAX 092-575-1213 E-mail info@swc-jp.com
 【ショールーム】〒815-0032 福岡県福岡市南区塩原3丁目1番8号
 TEL 092-561-2008 FAX 092-561-2255

EVD evolution駆動装置

EV系電子弁

PCO系コントローラ

プログラミングツール

GEA Refrigeration GEA Geneglaces.a.s

CAREL

Bitzer

MAJA®